



ほっと福岡

No.37 2018年3月発行

みんなで取り組もう！

視覚障がい者の駅ホーム転落防止

駅ホームは視覚障がい者にとって「欄干のない橋」と言われます。特に危険が伴うのは、プラットフォームでの移動と電車の乗り降りです。視覚障がい者の転落事故は、平成22年以降、年間60～90件で推移しており、当事者団体の日本盲人会連合の調査では会員の約3割がホームからの転落を経験していました。そのうち7割は日頃利用している駅での事故です。

視覚障がい者のホームからの転落を防ぐためには、どのような取り組みが必要なのでしょうか。おおむね次の三つのことが考えられます。

1 白杖や盲導犬の正しい利用

一つ目は、白杖や盲導犬を正しく利用することです。白杖や盲導犬も正しい方法で利用ができていないと、ホームの端を見つけないことができません。白杖を使いホームを歩く場合は、肩幅より少し広く杖をふり、身体より先に杖がホームの端を見つけれられるようにすることが大切です。

このような白杖の技術を身につけられるように、あいあいセンターの視覚障がい者部門では、駅歩行も含めた歩行訓練を実施しています。



あいあいセンターでの歩行訓練



白杖を使って乗車する様子

2 周囲の人の援助

二つ目は、駅員や介助者の援助を利用することです。希望すれば駅員が乗り場まで案内し、乗車のサポートを頼むこともできます。

駅員の介助を得るのが難しい場合でも、介助者や周囲の人の声かけ、援助で駅ホームの安全な移動を行うことができます。声かけをする場合は「大丈夫ですか？」と聞くと反射的に「大丈夫です。」と答えてしまう方が多いので、「お手伝いしましょうか」などの具体的な声かけをお願いします。

3 ホームドアなどの安全装置を

三つ目は、駅のホームドアやホーム柵など安全装置の設置です。

福岡では、平成17年に福岡市営地下鉄の全駅にホームドアが設置されました。昨年はJR九州が筑肥線の九大学研都市駅下り線にホームドアを実験的に設置したほか、西日本鉄道は、天神大牟田線の西鉄福岡(天神)駅に、平成33年度をめどにホームドアを整備予定と発表しています。

目次

表紙	視覚障がい者の駅ホーム転落防止	
	障がい者地域生活・行動支援センターか～む……	2
	せいぶ・フレンドフェア……	3
特集	第10回研究・実践成果発表会	
	認知症の診断を受けたダウン症者の支援について……	4
	重度精神遅滞児へのコミュニケーションアプローチ……	6
	イベント・研修・セミナー情報……	10

これらの取り組みを継続的に続けていくことで、視覚障がい者の転落事故ゼロが実現する日が近づくのではないのでしょうか。